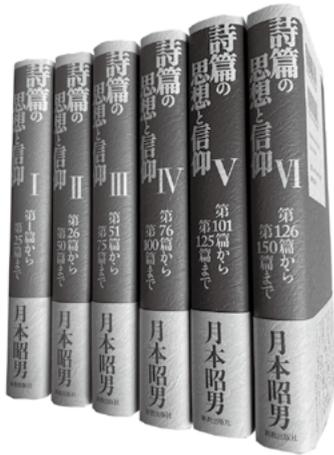




かつて詩人は書を捨てて街に出ようと言いました。確かに良い忠告でした。でも今や忌々しいウイルスのせいで軽々に街を彷徨うわけにはいきません。ならば、いったん捨てた書をもう一度取り上げてこれに親しんではどうか。それにふさわしい2点を小社の刊行物から選んでお勧めします。



月本昭男 詩篇の思想と信仰 全6巻

第I巻の刊行から17年かけてこのほど完結した、わが国最大の詩篇注解。厳密な私訳、詳細な語釈、各詩篇の構造と成り立ちの分析、そして思想と信仰について、深い、行き届いた解説を施します。

- | | | |
|-----|----------------|----------|
| I | 第1篇から第25篇まで | 本体 3200円 |
| II | 第26篇から第50篇まで | 本体 3800円 |
| III | 第51篇から第75篇まで | 本体 3300円 |
| IV | 第76篇から第100篇まで | 本体 3200円 |
| V | 第101篇から第125篇まで | 本体 3900円 |
| VI | 第126篇から第150篇まで | 本体 3400円 |

ジャン・カルヴァン／渡辺信夫訳 キリスト教綱要 改訳版 全3巻

宗教改革以後の教会と神学の支柱となり、近代ヨーロッパの思想と社会の形成に巨大な影響を及ぼし続けた必読の古典。3月に逝去した渡辺信夫牧師のライフワークとも言うべき訳業です。同牧師は生涯に2度この古典の全訳を行いました。このたびの改訳版は、20年近くに及ぶ彫心鏤骨の成果です。

- | | |
|----------|----------|
| 第I篇・第II篇 | 本体 4500円 |
| 第III篇 | 本体 4500円 |
| 第IV篇 | 本体 4500円 |



● 3 月 刊 行



正義と法 キリスト教法倫理の基本線

ヴォルフガング・フーバー／宮田光雄監修 ◆ A5 判・本体 9500 円

法の神学的基礎を探り、「人権」を最重要価値と位置づけ、現代の法治国家のあるべき姿を論じた大著。そのテーマは正義論から行刑のあり方、動物の権利問題にまで及び、さながら 21 世紀の法倫理の百科全書の観を呈す。著者はキリスト教社会倫理の泰斗、ドイツ福音主義教会監督、また WCC の指導的神学者として活躍した。主著の待望の邦訳。

● 3 月 刊 行

誰にも言わないと言ったけれど 黒人神学と私

ジェイムズ・H・コーン／榎本空訳 ◆ 四六判・本体 3000 円

黒人神学の先駆者として、現代神学史に決定的な一歩を刻み込んだ著者の最後の著作。ボールドウィン、キング牧師、マルコム X、そして名もなき黒人民衆——多くの先達への思いを重ねながら、自らの神学形成の道程を率直に綴った自伝。邦訳ついに刊行。



● 2 月 刊 行



現代神学の冒険

芦名定道 新しい海図を求めて ◆ A5 判・本体 3400 円

現代社会の抱える諸問題が多様化・複雑化していく状況に応じて、神学の課題も多岐にわたり、様々な方法論や主張が交錯している。著者は、驚くべき該博な知識と鋭利な分析力によって現代神学の思想的課題を明らかにし、進むべき方向性を展望する。キリスト教の現在と未来を考えるための必携の海図がここにある。『福音と世界』好評連載の単行本化。

● 1 月 刊 行

政治神学の想像力 政治的実践としての典礼のために

ウィリアム・キャヴァノー／東方敬信、田上雅徳訳 ◆ 四六判・本体 2500 円

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下巻

マタイマルコルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

◆A5判・予価8500円

新教出版社編集部編

現代のバベルの塔

反オリンピック・反万博

来たる東京オリンピック・パラリンピック、2025大阪万博は、民の生活を破壊する「現代のバベルの塔」だ！ 解放の神学、科学史、ジェンダー研究などから9名の気鋭の論者が参加し、その支配からの脱出を望み見る決定的論集。うち3名の鼎談も収録。

◆四六判・予価1800円

ジェイムズ・ロビンソン著／加山久夫、中野実訳

イエスの福音 本来の良き知らせ 「仮題」

Q資料の第一人者として斯界を牽引してきた碩学が最晩年に遺した信仰告白とも言えるべき書。「イエスが語らねばならなかったメッセージに耳を傾け、イエスの福音を聴き、それによつて自らの生き方をよきもののために変えよう。私はそのために本書を執筆した。」

◆四六判・予価3600円

フスト・ゴンサレス著／石田学訳

キリスト教史 下巻 「増補新版」

定評ある名著。2010年に増補された原著に基づき全面改訂。宗教改革から21世紀までのダイナミズムを活写する。

◆A5判・予価5000円

●4月に出た本と雑誌

逆風に抗して

ドロテー・ゼレ 回想録

ドロテー・ゼレ／三鼓秋子訳



戦後神学界に常に新鮮な問題提起を行ってきた女性神学者の逆風に負けない不屈の精神と知性、美的なものに開かれた感性が随所にきらめく稀有な人格を、生き生きと伝える自伝の傑作。

◆四六判・本体2900円

イエスを見つめながら

カンバーランド長老キリスト教会高座教会七〇年史



小さな英文聖書から生まれ育った教会の、迷いと成長の記録。時に迷いに痛みを負いながらも、キリストを見上げて走り続けてきた70年の軌跡をたどる。同教会編。

◆A5判・本体2000円

福音と世界

5月号 環境といのち——わたしたちの現在地

◆税込6600円

寄稿者：藤原辰史、太田和彦、奥野克巳、和田喜彦、藤原佐和子、小倉沙央里／栗田隆子、金汎野、好井裕明、土井健司、マニユエルヤン、松本あずさ、長谷川修一、辻学、山口政隆、内田樹

●新型コロナウイルス感染症の大流行が止まるところを知りません。この小文を書いている四月二〇日時点での国内感染者数は発表されているだけでも一万人超え。当然、それよりも多くのひとが感染していることが見込まれます。状況をなお悪くしているのが、医療崩壊や経済状況による人々の生存格差の問題です。行政・医療・教育などの社会的領域を経済のスキームによって統治し、セーフティネットをおおざなりにしてきたネオリベリズムのツケが現れているわけですが、国はそれすら意に介さないようです。四月三日に開催された「未来投資会議」の記録を見てみれば、そこに並ぶのはやれ6Gだオープン・イノベーションだギガ・スクールだと、あいも変わらずネオリベラルな雰囲気を漂わせた、端的にいえば宙に浮いたような話ばかり。こうした駄弁によって社会の舵が切られるのは絶対に避けたいところ。下手をすれば、他者との接近をトラウマ的に拒否しAIやアルゴリズムを通じた統治を甘受しながら、まさに「隔離」されたかたちでの労働と消費に没入していく（その影にはインフラやロジステイクスの維持に従事させられるひとたちがいるわけですが）、そんな時代も到来しかねません。ちょうど今日翻訳原稿が届いた書籍は、高度化

した消費社会と宗教の関係を論じたものです。そこに搭載された知が、ありえる未来に診断を下す一助となってくれることを期待しつつ、刊行にむけて動いていきたいと思えます。（堀）

●毎週日曜日に会堂に集まって礼拝を捧げることをキリスト教会はいわば生命線として守り続けてきましたが、感染症の拡大源となることを防ぐためにはそうもしていられなくなりました。カトリック教会では早くも三月二五日に東京大司教区がミサの全面休止を決定しました。プロテスタント諸教派でも同様の措置を講ずるところが増え、現在では礼拝を休止する、もしくは牧師と数名の役員による礼拝に代えるところが大半となっています。これを機に、従来アナログ的な世界だった教会の中で一気に進行しているのが説教をウェブで配信するなどのIT化です。私の属する教会では礼拝を休止したもののウェブ配信はしていないので、自宅では他教会の礼拝をパソコンで視聴しています。先週は〇〇教会、今週は△△教会といったように……。これが礼拝に「参加」したことになるのかどうか神学者の見解を問いたいところですが、少なくとも「見聞を広められる」のは事実です。それが良いことだと言いつつ、中には多分にためらいを感じつつ。（小林）

福音と世界

2020年
6

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・ヒップホップの福音

サグ・アナムネーシス

——ならず者たちが見る新しい世界——山下壮起
間違つてることを正しと歌わない

——日本の「コンシャス・ラップ」の現在——木信
「情報戦争」時代における文化——星野源

あなたは私に耳を貸すべきではない——高島鈴
「小説」金田満子のドーナブリック——飯田華子

生活のコンシャスネス——MCビル風の物語
——インタビュ

【注目の連載】

- ◆いまを生きるみことは3……………金迅野
- ◆I Say a Little Prayer 開かれる世界3……………栗田隆子
- ◆新約釈義 第三モテ書3……………辻 学
- ◆くまさんのシネマめぐり6……………好井裕明
- ◆教父学入門10……………土井健司
- ◆バビロンの路上で15……………マニエル・ヤン
- ◆遺跡が語る聖書の世界17……………長谷川修一
- ◆福音書記者たちの饗宴18……………松本あずさ
- ◆私はロックがわからない21……………山口政隆
- ◆レヴィナスの時間論62……………内田樹